

阿弥陀如来立像 (野洲市·西林寺)



勢至菩薩立像(野洲市・西林寺)



観音菩薩立像(野洲市・西林寺)

〈資料紹介〉

西林寺 (野洲市三上) 所蔵 木造阿弥陀如来及び両脇侍像

はじめに

たとされる (二)。 に慶珍によって創建された浄土宗寺院で、かつては安土浄厳院末であっに慶珍によって創建された浄土宗寺院で、かつては安土浄厳院末であっ野洲市三上の大中小路集落に所在する西林寺は、慶長七年(一六〇二)

報告する (1)。 当寺の本尊として本堂中央の須弥壇上に安置される阿弥陀三尊像は、当寺の本尊として本堂中央の須弥壇上に安置される阿弥陀三尊像は、当寺の本尊として本堂中央の須弥壇上に安置される阿弥陀三尊像は、当寺の本尊として本堂中央の須弥壇上に安置される阿弥陀三尊像は、

形状

阿弥陀如来立像

通。 む。納衣は左肩から背面、 ら右肩、 たるみをつくる。 肩にかけて背面に垂らす。衲衣の一層目を左胸の位置で二層目にかけ、 三道相をあらわす。覆肩衣、 (髪は螺髪とする。 右腕を覆う。右胸下で一旦たるみをつくって衲衣にたくし込 裙は背面左寄りで打合せる。 肉髻、 右脇下を通り正面にまわり、端部を再度右 肉髻珠、 衲衣、 白毫をあらわす。 裙を着ける。覆肩衣は背面か 右手は屈臂し、 耳朶は環状貫 胸の高

として来迎印を結ぶ。左足をわずかに踏み出して蓮華座上に立つ。さで掌を正面に向けて第一、二指を念じ、左手は垂下し、右手と同様

和

澄

浩

介

親音菩薩立像

二条、 条帛、 合せる。 左胸、 華座の上に立つ。 で蓮台を捧げ持つ。 り返し部にたくし込み、 脛側面に瓔珞がかかるたるみをつくる。 また、一層目の先端も背面にはあらわされない。裙は上端を折り返し、 からくぐらせる。ただし、現状端部は一層目下縁からはあらわれない。 部が耳をわたる。髻、 髻を結う。髻は上下二箇所を紐で束ね、 裙、腰布、帯状の腰布、天衣を着ける。条帛は左肩からかかり、 列弁文帯とする。 脇腹、背面を通って再度左肩にかかって、先端を一層目の上縁 天衣は現状両肘前からのみ垂れる。 腰をかがめ、 白毫相、 背面は臀部をわたる。 地髪とも毛筋彫りとする。 三道相をあらわす。 左足をわずかに出して前傾姿勢で蓮 帯状の腰布は正面のみ裙の折 髪束を五つ垂らす。鬢髪の 両手を屈臂し、 裙、 腰布とも正面で打 天冠台は下から 耳杂環状貫通 腹の位置

·勢至菩薩立像

部が耳をわたる。髻、地髪とも毛筋彫りとする。天冠台は下から紐髻を結う。髻は上下二箇所を紐で束ね、髪束を六つ垂らす。鬢髪の

条帛、 状両肘前からのみ垂れる。 裙の折り返しにたくし込む。 かるたるみをつくる。帯状の腰布は正面で結び、 帛の端部はあらわされない。 からくぐらせ、 右足をわずかに出して前傾姿勢で蓮華座の上に立つ。 脇腹、 裙 列弁文帯とする。 腰布、 背面を通って再度左肩にかかって、先端を一層目の下縁 一層目を巻くようにあらわす。現状正面、 帯状の腰布、天衣を着ける。 白毫相、 両手を屈臂し、 裙、 裙は上端を折り返し、 三道相をあらわす。 腰布とも正面で打合せる。 胸前で合掌する。 条帛は左肩からかかり、 一部を背面右寄りで 脛側面に瓔珞がか 耳杂環状貫 背面とも条 腰をかが 天衣は現 通

品質・構造

阿弥陀如来立像

樹種は不明。
か。背面頭部上方に光背を挿したかと思われる長楕円形の穴を穿つ。か。背面頭部上方に光背を挿したかと思われる長楕円形の穴を穿つ。手足先に別材を矧ぐ他、耳後ろで前後に矧ぎ、左右体側にも材を矧ぐ 木造、漆箔、玉眼。後世の表面仕上げにより構造が判然としないが、

· 観音菩薩立像 勢至菩薩立像

木造、漆箔、玉眼。後世の表面仕上げにより、構造、樹種共に不

崩

保存状態

阿弥陀如来立像

ら肉髻にかけて削り直した痕跡がある。 両足先、台座、光背、表面の漆箔、彩色、以上後補。正面の地髪か

観音菩薩立像

髻、左右天衣、表面の漆箔、彩色、銅製宝冠、胸飾、台座、以上後補

• 勢至菩薩立像

左右天衣、表面の漆箔、彩色、銅製宝冠、胸飾、台座、以上後補

滞 考

なり、 す例が多く、 三尊中の中尊 ンベル美術館釈迦如来立像 期の例である (三)。 作としては奈良県・光林寺阿弥陀如来像(承久三年・一二二一)が最初 **覆肩衣の一部をたるませる点、②胸部を広くとり胸の盛り上がりを控え** の作と考えられる和歌山県・光臺院阿弥陀三尊中の中尊、 の浄土宗蔵阿弥陀如来立像 めに表現する点、 て鎌倉時代の仏師快慶一派の作風が顕著である。 て以降その傾向があらわれ始め、その後時代を経るにしたがって顕著に に見受けられる。 中尊は、整理された明快な衣文表現や理知的な表情などから、 作者不明だが和歌山・五劫寂静院阿弥陀三尊中の中尊などが挙げら ④着衣に渦文をあらわす点などは、 行快作では西教寺像、 行快にも引き継がれている。③は、 快慶作では光林寺像、 (法橋銘) に見られる。 ③背面にかかる袈裟を大きくヘアピン状に折りたたむ ①の形式は、 ② は、 快慶が建仁三年(一二〇三)に法橋に叙され 京都府・聞名寺阿弥陀如来立像 (法眼銘)、 (建暦二年・一二一二) が最も早く、 行快の作風が顕著な甲賀市・玉桂寺旧蔵 光臺院像、 ④ は、 行快作では大津市・西教寺阿弥陀 快慶晩年から弟子の行快の作例 快慶作では光林寺像と同年頃 左内袖下方に渦文をあらわ キンベル美術館像に見ら ①左右の襟部 アメリカ・キ (法眼銘)

をあらわす例は管見の限り見当たらないが、聞名寺像は比較的高い。まはほぼ左胸の横に位置する。快慶一派の作でここまで高い位置にたるみを腹の線以下に設けるところ、本像は腹の線より上から始まり、たるみを腹が高い点が挙げられる。他の類例のほとんどが、たるみが始まる位置この内本像に見られる特異な点としては、左襟部の袈裟のたるみの位

快慶一派の作では西教寺像に見受けられる程度である。けて舌状にあらわした部分の二箇所である点も特徴的である。こちらもた、着衣に渦文をあらわす箇所が袈裟の左内袖下部と背面から側面にか

半期の行快周辺の工房の作との推定ができる。
銘文が確認されていないため即断はできないが、本像は十三世紀第二四に刻む点、②や④の特徴を有する点は、行快の作風に近いと考えられる。に刻む点、②や④の特徴を有する点は、行快の作風に近いと考えられる。に刺む点、②や④の特徴を有するとは、行快の作風に近いと考えられる。に刻む点、②や④の特徴を有するとはいえ、全体的な作風は明らか左記のような特徴的な表現を有するとはいえ、全体的な作風は明らか

おり、 見いだせないが、 像の帯状の腰布が背面右寄りで裙にたくし込まれる形式は、 著な神奈川県・教恩寺像、 ているが、この傾向はすでに光臺院像から見られる傾向で、 も中尊像に比べて胸や腹の奥行きが深く、 め上げる技術は秀逸であり、 表情は中尊像と同様で、 両脇侍像は後世の漆箔により当初の造形がわかりづらいが、 本像もこのバリエーションのひとつと考えられる。 聞名寺像は帯状の腰布を背面中央で裙にたくし込んで 複雑な姿勢とにぎやかに翻る衣を破綻なくまと 栃木県・地蔵院像にもうかがえる。 中尊像と同時期の作と見做し得る。 非常に量感ある側面観となっ 快慶風が顕 他に類例が 勢至菩薩 理 両像と 知的 な

付けられる。 県内では西教寺像が存在する程度で、本三尊像は非常に重要な作と位置県内では西教寺像が存在する程度で、本三尊像は非常に重要な作と位置行快一派の作風が明白である。三尊が揃うこの種の作例としては、滋賀うことがやや困難であるが、以上のようにそれを差し引いてもなお快慶、本三尊像は後世の表面仕上げに覆われているため当初の造形をうかが

本三尊像の伝来についても明らかでない。なお、西林寺については冒頭で述べた来歴以外のことは不明であり

(わずみ) こうすけ・滋賀県立琵琶湖文化館主任学芸員

(一) 『野洲郡史 下』 滋賀県野洲郡教育会 一九二七年

本稿に掲載した図版は、調査時に和澄が撮影した写真を使用した。俗博物館)、渡邊勇祐(守山市教育委員会文化財保護課)の両氏が参加した。調査は二〇二一年十二月十三日に実施し、筆者の他齋藤慶一(野洲市歴史民

法量は左記のとおり。(数値は四)

阿弥陀如来立像

五/肘張三二・九/裾張二二・四/足先開(内)六・八 (外)一六・〇像高九八・一/髪際高九〇・八/面長一〇・〇/面幅一〇・四/面奥一三・

観音菩薩立像

九・○ (外) 一三・四胸奥九・○/腹奥一○・七/肘張一八・五/裾張一七・○/足先開(内)像高五九・一/髪際高五○・一/面長七・○/面幅六・五/面奥九・○/

• 勢至菩薩立像

胸奥八・九/腹奥一〇・五/肘張一八・三/裾張一六・四/足先開(内)像高五九・一/髪際高四八・〇/面長六・七/面幅六・五/面奥九・一/

八·一 (外) 一二·三

謝申し上げます。 西林寺住職飯田吉宣氏には図版掲載のご許可を賜りました。末筆ながら記して感



図2 阿弥陀如来立像 左側面



図1 阿弥陀如来立像 左斜側面



図4 阿弥陀如来立像 右側面



図3 阿弥陀如来立像 背面



図6 観音菩薩立像 左側面



図5 観音菩薩立像 左斜側面

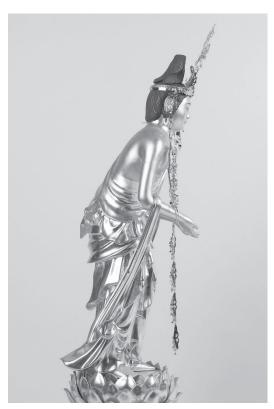


図8 観音菩薩立像 右側面



図7 観音菩薩立像 背面



図 10 勢至菩薩立像 左側面





図 12 勢至菩薩立像 右側面



図 11 勢至菩薩立像 背面



図 14 阿弥陀如来立像 頭部左側面

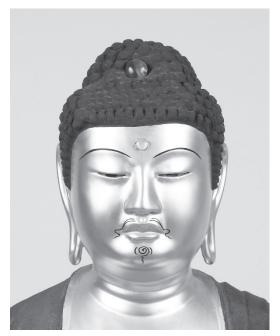


図 13 阿弥陀如来立像 頭部正面



図 15 全像正面